

DVD版 守礼の光

DVD全5枚・別冊1



103頁

発行—琉球諸島米国高等弁務官事務所
 体裁—DVD5枚（原本B5判変形、第160号のみA4判変形 総6、654頁）
 解説—仲程昌徳（元琉球大学法文学部教員）
 推薦—大田昌秀（元沖縄県知事）、我部政明（琉球大学国際沖縄研究所所長）
 別冊—解説・総目次・索引（別冊のみ分売可＝3,000円）ISBN978-4-8350-6994-4
 付録—①『農山漁家の暦』（1966年・1969年・1972年）4冊＝196頁
 ② ENGLISH LESSONS [英語教室]（1968年）＝32頁
 ③ OKINAWA—KEYSTONE OF THE PACIFIC（発行年月日不明）＝64頁
 原本提供—公益財団法人 沖縄協会、（有） 榕樹書林（武石和実）
 DVD作成—（株）Nansei（旧南西マイクロ）
 定価—揃定価175,000円＋税

第2回配本		第1回配本		配本
Disc 5	Disc 4	Disc 3	Disc 2	Disc 1
第144号/第160号 +付録	第108号/第143号	第72号/第107号	第36号/第71号 +第44・68号付録	創刊号/第35号
1971年1月 ～1972年5月	1968年1月 ～1970年12月	1965年1月 ～1967年12月	1962年1月 ～1964年12月	1959年1月 ～1961年12月
17冊＝576頁 +付録7冊＝292頁	36冊＝1,344頁	36冊＝1,746頁	38冊＝1,576頁	35冊＝1,120頁
2012年10月刊 本体70,000円 ISBN978-4-8350-6993-7			2012年5月刊 本体105,000円 ISBN978-4-8350-6992-0	
頁数		頁数		頁数
配本年月/本体価格		配本年月/本体価格		配本年月/本体価格

※原本には通号表記がない号があるが、通号は不二出版において付した。

●近刊予告 2013年5月刊行開始!

今日の琉球

琉球列島米国民政府渉外報道局 発行

全12巻・別冊1

1957年10月～1970年1月刊(全146冊)
 B5判・上製・復刻版
 別冊＝解説・総目次・索引

●価格は全て税別。

不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘二丁目二
 TEL 03-3812-4433
 FAX 03-3812-4464
 振替 00160194084

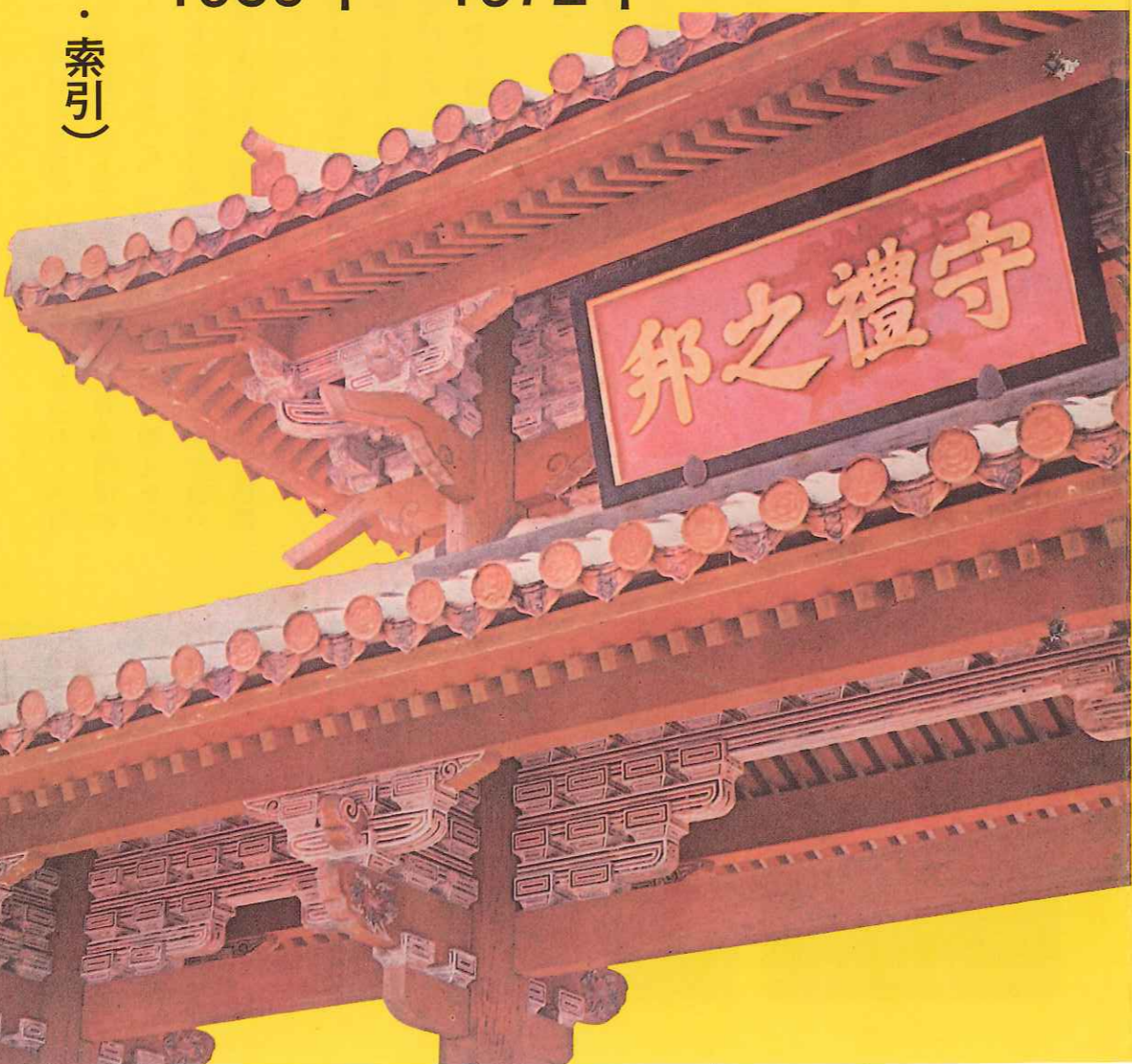
沖縄の本土復帰から40年。
 『アメリカ世』の時代を
 克明に記録した
 米軍資料の復刻再現!

DVD版

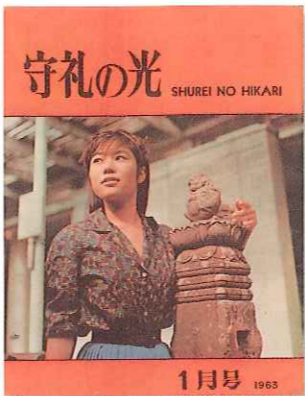
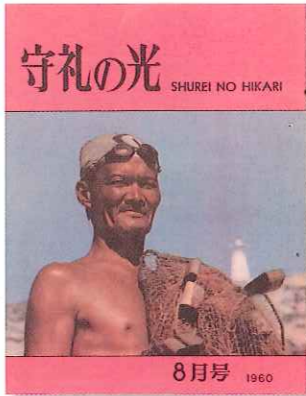
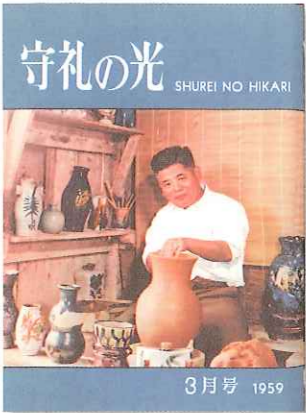
守礼の光

1959年～1972年

- DVD全5枚・別冊1（解説・総目次・索引）
- 揃定価＝175,000円＋税
- 刊行＝2012年5月（第1回配本）／10月（第2回配本）
- 解説＝仲程昌徳
- 推薦＝大田昌秀・我部政明



不二出版



アメリカ軍の沖縄占領は一九四五年から一九七二年にわたる。沖縄では、この期間を「アメリカユーク（世）」といい、その前後の「ヤマトユーク」と区別する。「守礼の光」は、「今日の琉球」と共に、この時代の沖縄の生活・文化・経済等の様子をカラー写真を中心としてあますところなく示している。ただし、沖縄における米軍の目を通して。

一九五九年創刊の『守礼の光』は、『今日の琉球』の創刊より二年遅れて刊行された、写真（多くはカラー写真）を主体とする月刊誌である。日本復帰の一九七二年五月まで、延べ一六〇号が刊行された。『今日の琉球』が、論文を中心とする理論機関誌とすれば、『守礼の光』は戦前日本の『写真週報』的存在であった。しかも一九六八年の記録によれば、人口の一割に近い九万二千部の刊行部数を数える、米軍のプロパガンダ誌であった。

アメリカの豊かな経済力を誇示するように、カラー印刷をふんだんに使用した本誌は、五〇年代後半の沖縄県民の怒りを表した島ぐるみ闘争の盛りあがりに対抗する、アメリカ軍の反撃であると受けとめられた。そのため、多くの県民はこの「紙バクダン」をクズ箱に捨てた。その結果、図書館にも完全にそろっていないところはない。

今回、榕樹書林の収集努力によって、ほぼ完全な姿で本誌を画像データ化することができた。今日の沖縄の基地問題をめぐる日本政府の迷走は、この「アメリカユーク」時代の産物であり、当時の沖縄県民の姿を伝える「史料」として、復帰後四〇年の本年、カラー写真を再現する方法としてDVD版で刊行する。

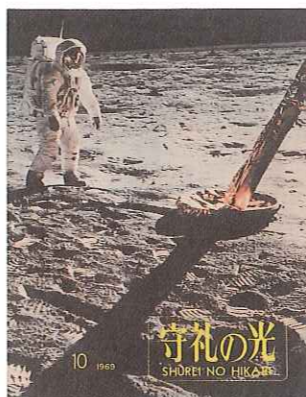
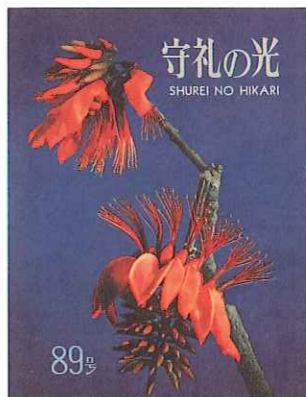
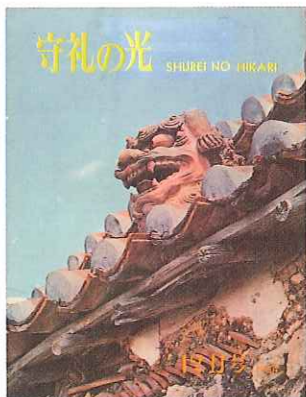
米軍の当時の印刷技術を見せつけた本誌は、今日我々にとっても貴重な史料となりうる。

多くの図書館、大学図書館、公立図書館において、活用されることを望むものである。

また、『今日の琉球』は復刻版として、二〇一三年に刊行する。あわせてご利用いただければ幸甚である。

二〇一二年三月

—不二出版



米軍政下、離日政策を担った宣伝誌

大田昌秀

この度、不二出版株式会社から米軍占領下で琉球列島米国高等弁務官府が対沖縄住民向けに発行した広報宣伝月刊誌『守礼の光』が復刻されるとのこと、今では個々人には非常に入手困難なだけに、時宜に適切、戦後沖縄における米軍政の研究に裨益することと合わせて大である。この雑誌は、米民政府が発行した『今日の琉球』と一対になって被占領下の沖縄住民に国内外のニュースを報じると共に、琉球文化の独自性を自覚させ、米軍に協力させて軍政を円滑に推進する一種の離日政策の狙いを持っていた。そのため沖縄独特の文化面の記事内容が多く取り入れられ、琉米文化会館などを通して数万から十万余部もばら撒いていた。

米軍はつとに一九四三年の時点でニューヨーク州のコロンビア大学に一流大学の数名の教授を集め、「沖縄研究チーム」を設立し、後の軍政要員としてあるゆる角度から徹底して沖縄研究をさせた。その中には『琉球の歴史』の著者として有名な元スタンフォード大学の歴史学教授のジョージ・H・カーなども含まれていた。来るべき沖縄戦で地元住民を日本軍から引き離して戦闘を米軍に有利に展開させるための心理作戦用宣伝ビラの内容を検討したり、占領後の軍政について調査・研究するためであった。そしてハワイや南米の沖縄移民などが日本政府や本土日本人に対して、どのような感情を抱き、考えているかなどについて徹底的に意識調査などをしていくが、それは戦争や軍政を展開する上で、離日政策を図ると共に、戦時中から戦後にかけての軍事基地建設に協力させる狙いもあった。

こうして戦時中は、八百万枚から一千万枚に及ぶ宣伝ビラが飛行機から、さらには砲弾に込めて各地に撒布されたほか、日本の敗戦後の米軍政下では一九五九年一月に発行した『守礼の光』が心理作戦の一翼を担った。それだけに、その復刻はきわめて意義深く、広く活用したいものである。

（元沖縄県知事、前参議院議員、現大田平和総合研究所主宰）

「世界中の沖縄」——クール・ジャパンのひとつ

我部政明

米国による沖縄統治から、日本に施政権が戻されてから四〇年を迎えようとしている。一九四五年から一九七二年にわたる米国の統治を長いと見るのか、短いと見るのかを問う人は稀だ。ワシントンでは、冷戦の最中であつても外国領土（ここでは日本）に大規模な基地を建設し、自由に使い、しかも長期にわたることがはたして可能かどうか、疑問視する声があつた。二つの世界大戦を経て、民族自決の原則が広まり、非植民地化がアジア、アフリカで展開する時代を迎え、戦勝の結果として領土を獲得することに正当性は失われていたからだ。

米軍政にとって、沖縄の人々が支持するような統治をするためには、どうするか。民族としての日本を志向したがる沖縄の人々の米國統治への不満を緩和しながら、せめて黙認を得ることが、現実的な課題であつた。その実現方法として、沖縄の人々の日本志向を抑制するために、沖縄の独自性を教えるような装置としての印刷物に期待を寄せた。それが『守礼の光』であり、『今日の琉球』である。

沖縄の独自性が強調されるとき、これらの印刷物に登場する沖縄の歴史や文化にまつわる物語はいきいきと蘇る。統治する側が利用できる物語であると同時に、沖縄の人々にとって自らのアイデンティティ探しの中核でもあるのだ。日本の中で異なる雰囲気をもつ沖縄への注目が、二一世紀に入って、集まるようになっていく。視野を広げると、それは極めて自己中心的な理解であることがわかる。日本における韓流ブームに始まり、中国人の韓国や周辺地域への関心の高まり、日本人には気づきにくいクール・ジャパンなど、世界中の人々がお金を持ち始めると、異なる雰囲気への関心を抱くようだ。文化のグローバル化の中で起きる文化接触による現象であろう。そんな中、支配を通じた二つの沖縄と米國を捉える視点を超えて、世界中の沖縄で生起する自分たちの物語を紡ぐ材料が、この印刷物にある。

（琉球大学国際沖縄研究所長・国際政治学）



沖縄県教育会／
沖縄教育会発行
一九〇六年～一九四四年
沖縄教育
全36巻・別冊1

戦前期沖縄における教育誌『沖縄教育』は、一九〇六年三月、『琉球教育』の後継誌として刊行された。沖縄における「大和化」政策など、近代沖縄における教育と文化の史実を解き明かす上で最も重要な資料であることはもちろん、広く沖縄近代史の基礎的資料でもある。本誌は、散在が著しい状態であったが、現存する原本をつぶさに調査し、全冊のうちおよそ半数強を発掘、復刻するに至ったものである。姉妹誌にあたる『島尻教育』『八重山教育』ほかを付録として収録。

編集▼『沖縄教育』復刻刊行委員会
別冊▼解説(藤澤健一・近藤健一郎・梶村光郎・三島わか)・総目次・索引
体裁▼B4判・A5判・上製・総約13,200頁
価格▼540,000円+税
推薦▼逸見勝亮・三木健・屋嘉比取
09年11月、12年5月配本完結予定(復刻版)



宮古民友新聞社・
南西新報社ほか刊
一九四五年～一九五三年
**占領期・琉球諸島
新聞集成**
全16巻

奄美・沖縄・宮古・八重山の四諸島は、戦後初期の約八年間、琉球諸島として、共に米軍政下に置かれ、米軍はこれらの諸島を四群島別に統治していた。したがってこれらの地域は、この時期、社会的事情においてもかなりの地域差があり、政治的文化的諸活動において独自の歩みをしてきた。こうした地域独自性を知る貴重な手がかりが、それぞれの地域で発行されていた新聞である。沖縄現代史を解明するために、『宮古民友新聞』、『みやこ新報』、『南西新報』、『海南時報』、『奄美タイムス』の五紙を復刻刊行する。

監修▼新崎盛暉
解説▼仲宗根将二・大田静男・弓削政巳
体裁▼A4判・上製・総約6,140頁
価格▼448,000円+税
07年11月、09年10月配本完結(復刻版)



DVD版
近代沖縄新聞集成
全12枚・別冊5

沖縄戦は、県内で発行されていた新聞のほとんどすべてを焼き払った。本集は、戦前までに沖縄で発行された、半世紀に及ぶ調査によって県内外から掘り起こされた全新聞を、沖縄・日本近代史の資料として提供する。

内容▼琉球新報(一八九八～一九一八年、一九三八～一九四〇年)、沖縄毎日新聞(一九〇九～一九一四年)、沖縄日報(一九三八～一九四〇年)、沖縄新聞、沖縄朝日新聞、沖縄タイムス、沖縄新報、その他

編集▼『近代沖縄新聞集成DVD版』刊行委員会(新崎盛暉ほか)
別冊▼収録新聞発行年月日・号数一覧
体裁▼DVD全12枚・検索システムインストールCD
全4枚
価格▼570,000円+税
推薦▼有山輝雄・仲程昌徳・三木健・宮城晴美
10年11月、13年6月配本完結予定



琉球新報社刊
一九五一年～一九五六年
琉球新報
全27巻

本誌は、日本の無条件降伏の前月、一九四五年七月二六日に創刊された『うるま新報』(弊社より縮刷版既刊)の継続改題誌である。戦後、アメリカ支配下に琉球政府が発足させた沖縄における最初の地元新聞であり、当時の沖縄県民の姿を映す貴重な資料である。弊社では、一九五一年九月一〇日(八六七号)から奄美大島日本復帰に至る一九五三年二月三十一日(二六八八号)までを第一期、一九五五年六月までを第二期、一九五六年二月までを第三期として復刻し、戦後復興期の日本及び沖縄を知るための資料として提供する。

解説▼新崎盛暉
体裁▼B4判・上製・総約9,548頁
価格▼756,000円+税
推薦▼我部政男・門奈直樹
03年10月、07年10月配本完結(縮刷版)



琉球の戦後教育史概要(1)
ゴードン・ワーナー博士
(米民政府教育局長)

赤松梅の終焉
赤松梅は、戦後琉球の教育界に大きな影響を与えた人物である。彼が主導した教育改革は、琉球の教育を近代化させることに大きく貢献した。この本では、赤松梅の生涯と教育思想について詳しく紹介している。



あなたの役にたつ
琉米文化会館



米軍で活躍する琉球人
第二次世界大戦中、琉球の若者が米軍で活躍した。彼らは戦場の最前線で勇敢に戦い、戦後には琉球の復興に貢献した。この本では、彼らの活躍の経緯について詳しく紹介している。

第120号(1969年1月号)
第106号(1967年11月号)

選挙に関する高等弁務官の声明

一九六八年十一月十日に行われた主権選挙の結果が判明した後、高等弁務官は次のような二つの短い声明を発表した。

一九六八年十一月十日の選挙結果は、米民政府の意向を反映している。選挙は公正に行われ、結果は受け入れられる。米民政府は、琉球の将来のために、選挙の結果を尊重し、平和的な方法で問題を解決することを望んでいる。

第146号(1971年3月号)

沖縄の宝物

返還はどうして起こったか

この本は、琉球の歴史と文化について詳しく紹介している。琉球の宝物は、琉球の歴史と文化の象徴であり、琉球の将来のために大切に守らなければならない。この本では、琉球の宝物について詳しく紹介している。

基本的事項は日本の領土
琉球は、戦前日本の領土であった。戦後、琉球は米民政府の管轄下に入った。琉球の将来については、琉球の人々が話し合い、決定することによって解決されるべきである。

米軍で活躍する琉球人
第二次世界大戦中、琉球の若者が米軍で活躍した。彼らは戦場の最前線で勇敢に戦い、戦後には琉球の復興に貢献した。この本では、彼らの活躍の経緯について詳しく紹介している。